

令和6年度学校評価 評価結果

本年度の 重点目標	1. 探究する力を向上させるために	①主体的に学ぶ態度を確立し、様々な知識を活かしながら、物事の真理を探究する姿勢を養う。 ②ICTを積極的・合理的に活用し、様々な観点に立って、物事の真理を探究する姿勢を養う。
	2. 共感する力を向上させるために	①共に学び、ともに考えることにより、互いの考えを認め合い発展させる、豊かな人間性を養う。 ②ともに活動し、ともに体験することにより、互いのおこころを思いやり共感する、豊かな人間性を養う。
	3. 自立する力を向上させるために	①生徒会活動や部活動などを通して、自らの役割を理解し責任をもって行動する態度を養う。 ②学校行事や部活動などを通して、自らの意志で積極的に周囲に貢献しようとする態度を養う。
	4. 突破する力を向上させるために	①自らの目標達成のため突破すべき課題を設定し、解決に向けて粘り強く努力する姿勢を養う。 ②SDGsなどの取組で追究すべき課題を発見し、解決に向けて主体的に学ぶ姿勢を養う。
	5. 業務の見直しや効率化を進めるなどの業務改善に取り組み、教職員の健康維持に配慮して在籍時間の適正化を図り、多忙化の解消に努める。	

分掌による取組

項目	分野	取り組み内容	具体的方策	評価結果と課題	担当
3	自立する力の向上	生徒が主体的につくり上げる学校説明会の実施	①総務係を中心とした本校生徒が、中学生に本校の魅力を伝える場を提供する。 ②学校紹介ビデオのリニューアルに際して、本校の魅力がより伝わるよう工夫させる。 ③学校説明会当日のプレゼンテーションにおいて、本校の魅力の伝え方を生徒に考えさせ、工夫させる。	昨年度後期から総務係の有志の生徒に新たな学校紹介ビデオを作成させ、今年度の学校説明会ではそれを上映することができた。また、プレゼンを担当した生徒は、教員が作成したスライドのレイアウトを変更したり、独自の内容を加えてオリジナルのスライドを作成し、自分の言葉で学校の紹介をした。当日はスムーズに運営ができた。ただし、今年度は前日が出校日でなかったために掃除などの事前準備がやりづらかった。来年度は掃除などの準備をしっかりして臨みたい。	総務部
1	探究する力の向上	主体的に学ぶ態度を確立し、様々な知識を生かしながら、物事の真理を探究する姿勢を養う。	①観測別評価の「思考判断表現」「学びに向かう姿勢」の評価方法を教科主任会などを通して共有することで、教科と連携しながら生徒の主体的に学ぶ態度の育成を図る。 ②知識の定着を図るためのツールとしてスタディサプリ等の活用を教科担、生徒に働きかける。 ③ICTを用いた授業の実践を各教科に促し、生徒の探究活動や教科間の横断的な学びにつなげる。	ICT等の活用によって、日常の授業をより魅力的なものにしていく取組を引き続き行っていききたい。今後は、定期考査だけでなく、様々な方法で生徒を評価をしていくことで生徒の多様な能力を伸ばしていく教育が必要であることから、授業での生徒への働きかけや発問の工夫・改善を教員間で指摘し合えるような授業改善の機会を設けていききたい。	教務部
1	探究する力の向上	「主体的なICT教育のあり方」	授業等における生徒の主体的な活動を支えるために情報機器の活用方法を検討する。	年度当初の新生入生へのタブレット配付、在校生のID更新をはじめ、年間を通じて故障や不具合等にも迅速に対応するなど、物理的にICT活用の機会が失われないよう最大限配慮した。しかし、故障・不具合時に代替機が必ずしもあるわけではなく、また、ネットワークの不具合や更新時には使用できない空白の時間ができてしまう。にもかかわらず、タブレット使用を前提とした授業を行うようにする世の中の流れは、ある意味で危険ではないだろうか。あくまでもICTは補助教材であるという認識のもとで学校教育が進んでほしい。	情報図書部
4	突破する力の向上	実力テスト実施内容についての検証	①放課の延長等、今年度実施した実力テストの変更点について検証する。 ②実施科目について、生徒の取組や学習の定着具合を検証する。 ③年度に向けさらに生徒に効果の期待できる実力テストとなるよう計画する。	今年度の実力テストについては時間帯・時間割について大きな問題なく実施できた。生徒の取組が芳しいとは言えないので、来年度に向けて実施時期に応じた出題の方針を生徒に周知した上で実施したい。	進路指導部
3	自立する力の向上	支援が必要な生徒の早期発見・早期対応、問題の未然防止に努めるとともに、改善・回復を促すことも意識したチーム支援を構築する。	①日常の相談活動として、生徒のニーズに速やかに対応できるように、相談室に担当教員を配置する。 ②「相談室だより」の定期的発行や掲示物等を通して、生徒の心の成長の底上げを図る。 ③不適応状態になった生徒やその保護者に援助を行い、SCやSSW・専門機関などとも連携を図る。	日ごろから生徒についての情報交換及び共有を行い、関係職員と連携することで、支援を必要としている生徒を早期に発見し、速やかに対応するように努めた。また、SC(スクールカウンセラー)やSSW(スクールソーシャルワーカー)による専門的な助言を受けたことで、生徒の状況が好転したり、日常の生徒対応に生かしたりすることができた。来年度も同様に支援を行うとともに、生徒が自立する力をつけていくように努めたい。	生徒相談部
3	自立する力の向上	交通安全・防犯意識の向上と遅刻の減少	①全職員に共通理解を得るとともに、警察などとの連携を図る。 ②生活交通委員会の交通安全啓発活動と、防犯活動を促進する。 ③職員会や集会などを通じて交通安全・防犯に関する情報提供を行う。	交通指導員、中学校PTAの交通係と定期的に通学路における危険箇所を情報交換を行ったことにより、本校の生徒の通学事情を詳しく知ることができたことで、交通安全指導が充実できた。大きな課題としては、本校生徒の交通マナーには問題が多く、登下校時における自転車事故も減少はしたものの他校に比べて多い。また、今後は、更なる交通安全に対する意識向上のための取組が必要である。11月より道路交通法が改正され、自転車運転の違反に対して罰則が厳罰化された。生徒の生命を守るために、自転車乗車時のヘルメット着用を呼びかけるとともに、生徒自身が考え、行動し、安全な通学路を選択ができる交通安全教育を行い、自己指導能力のある生徒の育成を目指していききたい。	生徒指導部
3	自立する力の向上	変化する時代でも主体的に考動する生徒を育成する	①文化祭のクラス発表の立案・運営に際し、各自に役割・責任を持たせ、協力する場面を設定する。 ②例年と異なる日程で実施する体育祭で、生徒が主体的かつ柔軟に、運営に関わる態度を定着させる。 ③様々な状況に応じて、活動運営をさらに円滑にする。 ④生徒会活動や行事を通して、広く学校外への関心を持たせる。	各行事において、企画に係生徒の提案を生かしている方式を定着させたい。また今後の社会の変化に柔軟に対応できる力をさらに育てたい。	特別活動部
3	自立する力の向上	けがの発生、重症化の予防と、けがの予防に対する生徒意識の	①「保健だより」等を使い、けがの発生予防、対処法などの広報活動を行う。 ②部長会などを使い、運動部員、マネージャーに、整理運動の重要性、緊急時の対応などの研修を行う。	・部活動への保健指導や保健だよりでの啓発活動により、けがの予防や安全についての意識を高めることができた。しかし、けがの発生件数はなかなか減らすことができないため、今後も部活動への保健指導を継続しつつ、ほかに有効な手立てがないか探っていききたい。	保健部
2	共感する力の向上	いじめの早期発見と、適切な事案対処	①「いじめ防止基本方針」を教職員間で共有しHPに掲載するとともに、「いじめのサイン発見シート」を保護者に配付し、啓発を図る。 ②「いじめ防止基本方針」に基づき、早期発見・事案対処の手順(マニュアル)を教職員間で確認するとともに、「いじめの認知について」を配付し、教職員間の共通理解を深める。 ③生徒に対して、定期的に「こころのアンケート」を実施することによって、いじめを早期に発見し、適切な対処に繋げる。また、掲示物等を通して、「共感する力」の啓発に努める。	「いじめのサイン発見シート」を配付し、いじめ防止の啓発や「こころのアンケート」を定期的実施することによって、悩みを持つ生徒の早期発見・情報共有・早期対応に繋げることができた。来年度以降もアンケートを活用した情報共有を継続するとともに、いじめの防止や早期発見、「共感する力の向上」に資する啓発活動にさらに取り組んでいきたい。	いじめ対策委員会
5	安全衛生	職員の健康障害防止と労働環境の適正化	①年次休暇を年5日以上取得するように促す。 ②在籍時間等調査において勤務時間外従事時間が月80時間を超える職員には面接を促す。 ③年間12回(月1回程度)の定時退校日を適正に実施する。	職員の心身の不調の要因となる長時間労働はおおいた防がることができたが、まだ特定の職員の負担が見受けられるので改善していききたい。また、心身ともに健康に仕事ができる職場環境づくりに継続的に取り組んでいきたい。	安全衛生委員会

学年による取組

第1学年	自立する力の向上	学習習慣・基本的な生活習慣の確立、進路目標の設定	①学年通信やLT等を通じて自身の授業への姿勢を省みる機会を持ち、毎日の授業を大切にしている意識を養う。 ②定期考査を軸に学習計画を立てる機会を設け、トライアル&エラーの中でその質を高める。 ③挨拶、整理整頓を推進し、自身の周りの物事にアンテナを向けられる生徒育成に努める。	多くの生徒が、基本的な生活習慣・学習習慣の基礎を確立することができた。しかし、先の見通しを持った生活を送る点にはまだまだ成長の余地があると思われる。来年度は、今年度の経験をもとに、より計画的に学習を進めて、高校生活を有意義なものにできるようにサポートしていききたい。
第2学年	探究する力の向上	個々の興味関心に応じた進路目標の設定	①進路に対する意識を高めるために、多様な進路情報を適切な時期に提供する。 ②進路目標の実現のため、望ましい学習習慣の構築へと導く。 ③定期的な個人面談を通して生徒個々の現状や課題を把握し、進路目標の設定の手助けを行う。	総合的な探究の時間を中心に、自らの興味・関心について考えを深めることができた。また、年間を通じて担任との面談を定期的に行い、生徒個々の実態把握と適切な助言を与えることを心がけた。今後は受験を意識した学習と高校での深い学びをリンクさせ、自ら主体的に学んでいく生徒を育成していききたい。
第3学年	突破する力の向上	進路目標の実現	①進路に関する最新の情報を学年団で共有し、生徒と保護者に適切に提供する。 ②学習講座、校外模試、スタディサプリなどの学習ツールの積極的な活用を促し、見通しを持った学習へと導く。 ③定期的な個人面談を通して生徒個々の現状や課題を把握し、進路目標の実現に向けて的確な進路指導を行う。	進路に関する最新情報を積極的に提供し、個別のニーズに応じた学習講座や校外模試、スタディサプリなどを効果的に活用して、生徒の学習成果を高めることに努めた。また、自習室を開放し、生徒同士が互いに励まし合いながら、年間を通して集中して学習に取り組む姿が見受けられた。入試の形式が多様化する中で、今後はさらに一人ひとりに合ったサポートを提供することが求められると感じている。
総合評価		各分掌・学年が重点目標に応じてその達成に意欲的に取り組んだ。保護者へのアンケート結果でも一定の評価を得ている。来年度以降も新たな課題に対応し、さらに活力と魅力のある学校づくりに粘り強く取り組んでいきたい。		